

ねらい クラスの仲間と思いを伝え合い、解決策を見出し、遊びを進めることを楽しむ

発達・教師の援助
環境構成のポイント

- ・クラス仲間と主体的にしっぽ取りを進める姿を見守る。
- ・自閉症スペクトラムのA児とともに遊びを続けるためのルールを自分たちで作りたいとしている姿を見守りながら援助するタイミングを図る。
- ・思いを出し合い、話し合い、様々な葛藤を乗り越えて仲間との遊びの継続をしようとする子どもたちを認める。

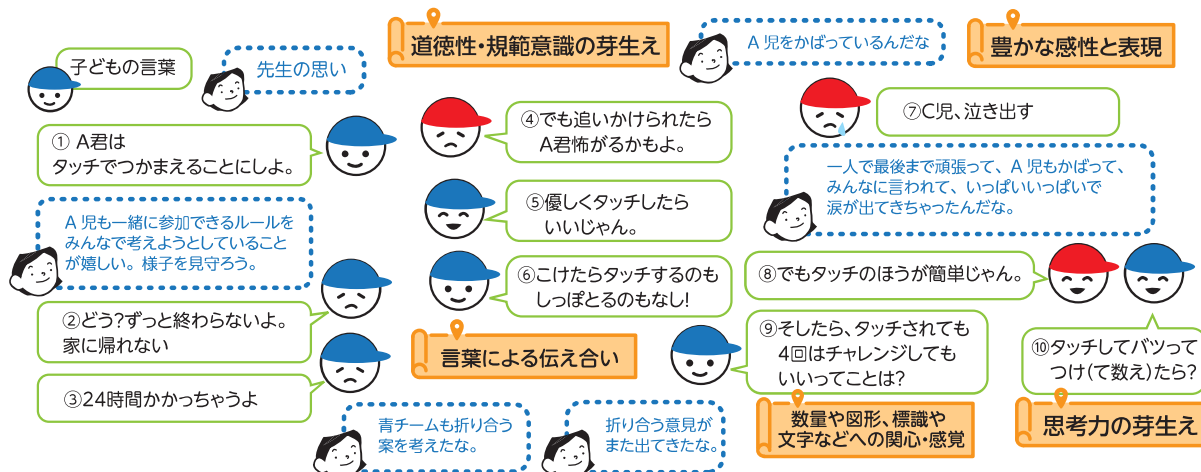


実践内容 終われないしっぽ取り ～A児と一緒に遊び、勝敗を決めるためには?～

以前の対戦でしっぽを取られたことが嫌だったA児は、しっぽをつけずに走り回り、仲間と一緒に遊びに参加することを楽しんでいる。A児が嬉しそうにしっぽを取りに行くのは、同じ赤チームの大好きなB児だけなので、あまり赤チームには貢献していないのだが、みんなと同じ場で一緒に走っているA児のことを、みんなはチームの仲間だと思い、一緒に遊べることを楽しんでいる。

1回戦、青チームは強い。一人残った赤チームのC児、最後まで頑張ったが、しっぽを取られてしまった。でも、A児はしっぽをつけずに走っているの、まだ残っている。それに気づいた青チームのみんなが赤チームに相談に行った。

健康な心と体



教師は、こうして、何とかA児も一緒に遊びようとする子どもたちの気持ちが嬉しく、もう一度A児に「A君、しっぽつける?」と確かめに行った。でもやっぱり、「しっぽはつけない」と言うので、A児にみんなが考えた「A君にはタッチする」「4回タッチされたらA君は陣地に戻る」というルールを説明し、A児の同意のもと2回戦が始まった。

保育を振り返って 1年生につながるもの:多様性を認める、葛藤経験、伝え合う、折り合う気持ちの調整力、規範意識、粘り強さ

仲間の赤チームも相手の青チームも誰もA児を疎外することなく、責めることなく、A児なりの参加の仕方を認めつつ、どうしたら勝敗がつけられるかという事をみんなで決めて遊びようとする姿を見て、嬉しくなった。入園当初は保育室の中に入ったり、クラスの友達と一緒に遊んだりすることがなかったA児が、少しずつクラスの友達の場所に来て遊び、そして、今は一緒にしっぽ取りができるようになった。これが、3歳児から入園して、「3年間積み上げたクラスの仲間の良さ」なのかと思った。3年間で「A君はこういう人」だということをクラスのみんなが認めつつ、赤チームは自分事のようにA児をかばいながら青チームに訴え、青チームは、A児の不利にならないルールを考えて、折り合いをつけて遊びを楽しもうとしている姿に子どもたちの成長を感じた。このような心の育ちが、小学校の学習や生活、人への関わり方につながるのだと思うとともに幼児期に大切にしたい経験だと改めて実感した。